

# ふらっと.come!

令和7年3月14日 第88号

発行者 特定非営利活動法人船橋福祉相談協議会

基幹相談支援センター「ふらっと船橋」

〒273-0021 船橋市海神1-31-31 ジュネス海神101

TEL 047-495-6777 FAX 047-495-6776

HP <http://flat-funabashi.com/>

Email [flat-funabashi@key.ocn.ne.jp](mailto:flat-funabashi@key.ocn.ne.jp)



春間近・・・

基幹相談支援センター

統括所長 清水 博和



梅の花から河津桜のピンク色があちこちで奇麗な景色を飾っています。

年度末は福祉事業者にとっても繁忙期?と言いますか、諸々新年度の準備や事業計画等に追われる時期ですね。当方も小さいNPOながらも基幹相談支援センター事業として委託を受けていますので年度末の事情は理解しております。

さて、令和6年度基幹事業の取り組みとして、主任相談支援専門員並びに医療的ケア児コーディネーターを中心とした事例検討チーム(CAT)を発足して実施してきました。船橋市においても平成24年に任意団体で船橋障害者相談支援事業所連絡協議会(FAS-net)を立ち上げ、当初より事務局を担っておりFAS-netから派生として基幹主導での呼びかけになります。それぞれが船橋市からの推薦を受けての受講となりますので、地域援助ないしその役割は期待されているところです。しかし、期待されながらも活躍の場が中々持てない状況の中では発揮し難い事からCATをその一端として実施してきました。4回の事例検討(SV方式)に延べ90名近い相談支援専門員が参加し、中身の濃い時間を共有しています。次年度は更に事例検討チームは継続しつつ、地域課題や地域診断も並行するワーキングチームを設け、船橋市における地域課題等について検証検討の場を広げていく予定です。この様に現場の力(意見発信等)を行政に届けながら共に考えていける船橋であるから民間も多忙の中、惜しまずに参加しており世帯支援を多機関協働で支える一助として取り組みます。

基幹相談支援センターとして新たに在宅医療ネットワークとのつながりは大きな出来事でした。これまでは医療機関単体での関係性(相談者を通じた)が主でしたが、今回のつながりは医療・介護等を含めたネットワークに声をかけて頂き障害者福祉の仕組み等をお伝えして来ました。歯科医師会では障害のある方の治療、予防等の対応についてご意見を聞き障害者福祉に関心の高さを感じています。船橋市は人口が65万人に届きそうな現状で鉄道は9路線、35もの駅があります。(中核市としては日本で一番の人口規模、高齢化率は24%(R5年)と市内エリアにより多少の特色はあります。このような地域においてこどもや高齢者、障害者(児)の施策、計画の策定を進めていくには様々な機関や団体とのネットワークが欠かせません。

仕組みを作っても大きい街だからこそその利点や課題もありますが、この街で暮らす方々が「住みやすい街」と思える様に皆さんが尽力されていると改めて感じ、元気をもらえた令和6年度だったと思っています。次年度も関係機関と「ふなばしONE TEAM」を目指して。

よろしくお願いいたします



船橋市役所 障害福祉課  
花島 陽子

令和6年10月に障害福祉課精神医療係より異動し相談支援係に配属されました花島と申します。これまで、健康政策課にて在宅医療や地域リハビリテーションの推進、生活支援課にてケースワーク業務に携わってまいりました。医療、福祉の専門職の方々とお会いする機会も多く、大変な忙しさの中で志高く地域を支えておられる姿に大きな刺激を受けました。また、ケースワークにて多くの方の生き方に向き合い、慌ただしい日々の中で忘れかけていた「目的意識をもって一日一日大切に生きること」の重要性に改めて気づかされ、自分自身の人生についても見つめ直す機会となりました。

事務職での採用ですが、ケースワークにおいて小さなお子様のいるご家庭に関わったことを機に、将来を担う子どもたちに知識と責任をもって関われる人になりたいと保育士免許を取得。視野を広げて新たなことに挑戦し学びを得る楽しさも実感しました。

障害福祉課に相談を寄せられる方々はご年齢も様々で、相談内容も障害のみならず、加齢や貧困による困りごとなども含まれ多種多様です。このため、ご本人の希望にできるだけ寄り添いつつ、適切な支援が何かを判断していくために、幅広い知識や経験が必要であり、実際に業務を行う中で、この仕事の難しさと、それを上回るやりがいを感じています。

障害福祉の制度についてはまだまだ勉強中ですが、今後お役に立てるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

ふらっと船橋での仕事を振り返って

基幹相談支援センター  
ふらっと船橋  
副所長 須崎 郁生



障害福祉は人による人に対する支援ですので、私が携わった総合相談に限らず、支援者は自身の感情をコントロールしながら継続的に支援を行っていきます。対応に苦慮する場面でも、苦しい辛いという本当の思いの抑制が求められます。このようなことが重なるとストレスになり疲弊してしまいます。中には退職を選択される人もいます。

人間らしく働くためには何が求められるか、一般的には職場内のミーティングや上司への相談になりますが、大事なものは、難しいケースほど多くの支援者に関わってもらうことだと考えています。

私は、困難と思うケースでは、上司の指示を仰ぎ同僚の知恵を借り、関わっていただいた行政はじめ数多くの事業所の貴重な意見や伴走を受けてきました。

今回一身上の都合により退職いたします。ご相談者の皆様、行政の皆様、総合相談事業所、相談支援事業所、地域の事業所の皆様、ふらっと船橋職員の皆様、長年支えていただきありがとうございました。中途のケースをお願いすることになりますが、何卒よろしくお願いいたします。